

町民文芸



只見短歌会

令和七年八月詠草

眠る子を起こすが如に芋掘れば福助ふくべひようたん形も
目黒 富子

処暑なるも残暑厳しき日々にして涼しき風は肌を吹きゆく
関谷登美子

風鈴の音にまどろむ我が息子ひと夏の午後涼風わたる
立花 奏音

そちこちに聞きて作りし冷やし汁炊きたてご飯にかけると知らず
新国由紀子

忘れがたき思ひ出をもつ品なれど増えゆく物に断捨離悲し
渡部ヨリ子

只見俳句会

八月定例会

手花火や孫の歓声闇を突く
修 一

刻々と炎暑を刻むユニホーム
都

七月や行列続くコンサート
一 恵

蓮一輪咲きて本堂しもれり
上気して清書する子や蟬時雨

葡萄棚甘き香漂うテイタイム
割れトマト手塩の畑に酷暑かな
真理子

猛暑かなネコの居場所も扇風機
睦 子

藪の中水音走る青胡桃
礼

日没の山陰となる鳥威し
とりおと